スポットライト
～地域で頑張る人たち～
No.14

札元にバラを育てて15年 これからも美しいまちに

札元商工親睦会

札元商工親睦会は、札元・旭原地区にある企業・団体からなる組織で、会員の親睦と融和を図りながら、地域発展のために貢献しようと、昭和63年2月に発足しました。現在、約50の企業・団体からなる会員が所属しています。

同親睦会は、札元地区を通る国道220号の歩道・通称「ばら通り220」(約330m)で、バラの剪定(せんてい)、施肥(せひ)、除草、清掃作業を定期的に行っています。これは、空き缶やごみが散乱していた大通りを改善しようと、平成15年2月、国土交通省の協力のもと、歩道の花壇にバラを植栽したことから始められたもので、町内会や近隣企業と一緒になって実施しています。この活動が評価され、平成28年6月には、「みどりの愛護」功労者国土交通大臣表彰を受賞しました。

このほか、8月に開催している「札元夏まつり」も主な活動の一つです。平成元年から開催し、今や地元の夏祭りとして定着。近年は地区内外から約8,000人が訪れるまでになっています。また、平成26年から年1回、講師を招いての勉強会を開催。これまで、地域の安心安全、マイナンバー、北朝鮮日本人拉致問題、認知症など、様々なテーマについて学んでいます。

森山哲男(もりやまてつお)会長は、「発足してから30年経ちます。今後も地域のための活動を続けていきたいです」と熱く語っています！

約550本のバラが植えられている「ばら通り220」。会員の定期的な除草・施肥作業で、毎年春と秋に美しいバラが咲き誇る

【右】多くの来場者が訪れる「札元夏まつり」
【左】講師を招いて、時事・社会問題について学び合う「勉強会」

「活動は住民の皆さんからも評判がよく、様々な人が協力してくれています」と話す森山さん

編集後記

国道504号から上祓川町の瀬戸山神社や五代寺跡に向かう道は、綺麗な直線になっていて歴史を感じさせます。83段の石段や仁王像も風情があります。このような地で行われる伝統の「春祭」に踊れる子どもたちは幸せだと思います。(前田)

レオナルド・ダ・ヴィンチが残した1枚の絵。JR東京駅丸の内駅舎復原プロジェクト。共通するのは「約500億円」という価値。数字上ほぼ同じ量の「価値」という概念が、具現化されるとここまで異なることは、大変興味深いものです。(原田)

吾平町鶴峰中地区の「鬼火たき」には、鬼火たきをする場所がない中央麓地区の子どもたちも参加。そば切り踊りを披露するなど、地区間での交流が行われていました。各地域の特徴を補完しながらコラボする素敵な取り組みだと思います。(田嶋)

✂キリトリ線

お便り＆メッセージ

ご協力ありがとうございました。

ご応募の際にご記入いただきました個人情報は、抽選・賞品引換券の発送・アンケート統計以外の目的で使用することはございません。